

目的：衣服が着用者に似合う程度の判定に当たって、着用者の顔・体型・髪型がどのように影響するかを求める。

方法：衣服1種類、顔3種類、体型4種類、髪型5種類の組合せを、コンピュータグラフィック（ダイアート）の画面に映し出し、判定者に「似合うー似合わない」を5段階で判定させる。判定者は再現性の高い者を予備テストで9名選んだ。判定結果に三元配置の繰り返しありの分散分析を行い、顔・体型・髪型の主効果と交互作用を求めた。併せて数量化理論による解析も行った。

結果：分散分析表が右のように得られた。

考察：分散分析表から、主効果は体型と髪型、交互作用は3要因の組合せに生ずることを知った。最も似合う組合せは顔（1）、体型（細い）、髪型（ボブ）であった。その他、それぞれの主効果と交互作用が有意になった要因を明らかにした。

要 因	SS	f d	MS	F ₀
A (顔)	2.67	2	1.33	1.58
B (体型)	384.21	3	128.07	151.99**
C (髪型)	31.69	4	7.92	9.40**
A*B	4.30	6	0.71	0.85
A*C	8.60	8	1.07	1.27
B*C	12.91	12	1.07	1.27
A*B*C	45.23	24	1.88	2.23**
誤差	404.44	480	0.84	
計	894.00			